

障害を持つ生徒の多くは、学習の障害となる不適切な行動を示します。その行動の中には、その生徒自身や他の人に害を及ぼすものもあります。生徒が問題行動を起こすには多くの理由があります。すべての行動は、たとえ不適切なものであっても、何らかの目的のために行われるのです。その行動が障害の一部である場合もあります。生徒自身が制御できない行動の場合もあります。その他の行動の中には、他のもっと許容できる行動に変えることができるものもあります。ご家族や専門家は、機能的行動評価・行動介入計画を使って、その行動の理由を理解し、行動を制御したり変えたりすることができます。

機能的行動評価(Functional Behavioral Assessment (FBA))とは

FBA では、行動の理由や機能について判断するため情報を集めます。ほとんどの場合、FBA は行動介入計画作成前に実施されます。FBA では様々なツールを使用します。ツールは、各生徒についてケースバイケースで選ばれます。FBA で集められた情報を使って、なぜ問題行動が起きるのか、どのような状況で起きるのかを理解することができます。この情報に基づき、個別教育計画(Individualized Education Program (IEP))チームが行動介入計画を作成することができます。

FBA の内容

- 変えさせたい行動の定義：学習の妨げとなる、あるいは生徒自身や他の人に害を及ぼす生徒の行動は何か。変えさせたい行動は何か。この行動は、観察可能で測定可能なものでなければなりません。
- 行動の測定：いつ起こるのか。どこで起こるのか。どれぐらいの頻度で起こるのか。どれぐらいの期間続くのか。その行動が起こったとき、誰がそばにいるのか。その行動が示される前にどんなことが起こったのか（原因）。その行動が示された後にどんなことが起こったのか（結果）。一日のうち、特定の時間帯にのみ起こるのか。
- データの収集と評価：これには、可能な場合いつでも、保護者や生徒、教師への面談が含まれます。過去の記録の調査も含まれます。また、チェックリストや質問票への回答も含まれます。また、他の状況における生徒の観察も含まれます。
- まとめ（仮説）：これは、集められた情報をもとに、チームが、その行動の機能や目的について（なぜ生徒がその行動を起こすのか）、理解しようと試みることです。

行動介入計画(Behavior Intervention Plan (BIP))とは。

BIP は、対象となる行動に対応するための積極的介入と戦略、サポートで構成されます。BIP は、学校側スタッフと保護者で構成されるチームにより作成されます。BIP は新しい行動について教え、奨励するために使用されます。BIP は FBA で特定された問題行動について対応しなければなりません。生徒の行動の原因やそれが発生する状況について、チームに十分なデータと知識がある場合は、FBA を実施する必要はありません。BIP は、生徒の行動が変化した場合には、修正が必要です。このハイパーリンクで、[行動介入計画の例](#)を見ることができます。

BIP の内容

- FBA からの情報これには、対象となる行動、収集されたデータ、その行動の目的や機能に関する最善のアイデアが含まれます。
- 行動回避・阻止のための積極的戦略：これには、習慣となっている行動を変えさせる、教室内での指導を変える、選択の機会を与える、等があります。
- 対象行動に替わる新しいスキル：これには、コミュニケーションスキルや、ソーシャルスキル、自己管理スキル、選択決定等があります。
- 新しい行動を教える方法：これには、モデリングや練習、ソーシャルストーリー、プロンプト、直接指導等があります。
- 結果：これには、対象行動が示されたときに何が起こるか、また望ましい行動が示されたときに何が起こるかが含まれます。
- 計画が実施された日。計画を実施した人の名前。
- 計画を実施する人に提供されるツールやトレーニング、サポート。
- データの収集と検討。
- チームミーティング、データ検討、計画のモニタリングのスケジュール。

その他の知っておくべきこと：

FBA および BIP は学習に影響を与える行動や、生徒行動規範の違反となる行動について作成することができます。

FBA はいつでも、保護者からでも学校側からでも要請することができます。また評価や再評価プロセス内で要請することができます。

評価を目的として FBA を実施する場合には、保護者の同意が必要です。FBA の結果は、IEP 計画に役立てるため、IEP ミーティングにおいて検討されなければなりません。

個別障害者教育法 (Individuals with Disabilities Education Act (IDEA))に基づき、保護者は独立機関による教育的評価を要請することを認められています。FBA が評価の目的のために実施され、保護者が学校側の実施した FBA に異議がある場合、独立機関による教育的評価を求めることができます。

生徒の行動により懲罰処分となり、学年度中に10日以上、停学となった場合、IEP チームは FBA を実施し、BIP を作成しなければなりません。すでに BIP がある場合は、チームはその BIP を見直し、新しい行動に対応するため、必要に応じて改訂しなければなりません。

IDEA には、FBA の実施や BIP の作成の手続きに関しては特にガイドラインが示されていません。これらの実施手続きについては、各学区に一任されています。ジョージア州教育省では、FBA や BIP の実施に関する指針を、学区に対して提供しています。詳細について以下のハイパーリンク先をご覧ください。特殊教育ルール実施マニュアル (Special Education Rules Implementation Manual)

ご家族のための助言：

お子様がたびたび校長室に呼び出される、あるいは停学になることがあり、FBA がまだ実施されていない、あるいは少なくとも3年以内に作成されていない場合は、新たに実施するよう要請してください。書面で要請を学校に提出してください。お子様の問題行動がひどくなったときや、チームが問題行動がなぜ起こるのか理解できない場合はいつでも、FBA を要請することができます。

お子様の懲罰記録や行動データを調べ、お子様の行動について担任教師や他の学校職員に相談してください。学校は、教師や他の職員に FBA を実施させることができます。保護者は、FBA を実施する個人のトレーニングや教育的背景、経験について尋ねることができます。また、学校が評価目的のために行った FBA に同意できない場合、保護者は、学校以外の専門家が行う独立機関による評価を要請することができます。

FBA 内で対象行動をどのように定義するかについて、意見を言ってください。但し、対象行動は、観察可能なものでなければなりません。観察可能な行動とは、人を叩く、嘔む、逃げる、机の下に頭を隠す、等です。無礼、なまけ、破壊的等の行動は、観察不能ですので、対象行動とはなりません。

お子様の BIP が問題や対象行動のみに焦点を当てている場合、新たな行動を増やすという目標を入れるよう、チームに要請してください。適切な BIP には、対象行動を減らすという目標、新たな行動を増やすという目標が、少なくとも1つずつ含まれなければなりません。

お子様の BIP には、お子様が取得すべきスキルと、教師や職員による支援の方法が含まれていなければなりません。BIP にお子様が取得すべきスキルのみが記載されている場合、お子様のその新スキル取得について職員がどのように支援できるかについても記載するよう、要請してください。

お子様にとって効果的であり、BIP に入れることができると思われる戦略について、意見を出してください。

学校配属警察官を呼ぶ、身体拘束を利用するといった緊急措置を BIP 内に入れることには、同意してはなりません。お子様の BIP は、問題行動を減らし、新しい行動について教え、学校での学習機会を増やすことに重点を置く必要があります。

詳細な情報については以下にご連絡ください。

ペアレント ツー ペアレント オブ ジョージア(Parent to Parent of Georgia)
770-451-5484 または 800-229-2038
www.p2pga.org

Georgia Department of Education 特殊教育サービス支援局
(Division for Special Education Services and Supports)
404-656-3963 または 800-311-3627 に電話し、「特殊教育(Special Education)」に電話を回すよう伝えてください。
http://www.gadoe.org/ci_exceptional.aspx

その他の情報源：学校の特殊教育ディレクター (Special Education Director)にご相談ください。